

日中両言語における限定とりたての二重表現 —単純表現との比較から—

李 哲

Abstract

This article offers a contrastive analysis on double restrictive focus expressions in Japanese and Chinese, a sentence containing two restrictive focus elements. Double restrictive focus expressions are used far more frequently in Japanese than in Chinese. Compared with simple focus expressions, the semantic function of double focus expressions of Japanese is intensification and disambiguation. Contrastingly, the double focus expressions of Chinese have only the function of intensification.

キーワード……限定 とりたて 二重表現 単純表現

1 はじめに

日本語の限定とりたて表現は、以下の例文(1)のように、一文中で単独で使われる場合だけではなく、例文(2)のように他の限定とりたて表現と共起する場合もしばしばある。

- (1) 作業は終わった。後は報告書を書くだけだ。(日本語記述文法研究会(編)(2009:50))
- (2) ただお互いの顔を見ているだけだった。(『ふたり』BCCWJ)

例文(1)の「だけ」(とりたて表現に下線を引く)はとりたて助詞で、文中の「報告書を書く」を際立たせ、残された仕事は「報告書を書く」ことに限られるという意味を表している。同時に、「報告書を書く」と同類の要素、つまり、資料収集や整理といった他の仕事については、残されていないことが含意されている。例文(2)では「ただ」と「だけ」という二つの限定とりたて表現によって「お互いの顔を見ている」という要素がとりたてられている。とりたてる要素の唯一性を示していると同時に、他のことを排除するという限定の意味が表されている。

例文(1)と例文(2)には、共通点と相違点がある。共通しているのはどちらも限定とりたて表現の「だけ」によってとりたてる要素の唯一性を示しているところである。例文(1)と異なり、例文(2)では、「ただ」というとりたて副詞が使われ、後位の「だけ」とともに文中の要素を同時にとりたてている。本稿はこのような表現を「限定とりたての二重表現」と呼ぶ。

限定とりたての二重表現とは、一文中に二つの限定とりたて表現が共起し、文中の同一か異なる要素をとりたてる表現である。限定とりたての二重表現と三重表現¹⁾を区別するために、

一つの限定とりたて表現が用いられる場合は「限定とりたての単純表現」と呼ぶことにする。
一方、中国語の限定とりたて表現も単独、或いは他のとりたて副詞と共に用いられる。

- (3) 他 只 投出 一份 简历。
(彼 だけ 出す 1 通 履歴書)
「彼は履歴書を 1 通だけ出した」 (『雑音』 BCC)
- (4) 我 父亲 也 只|仅仅 见过 他 两面。
(私 父親 も 二重限定 会った 彼 2 回)
「父親も彼に 2 回だけ会った」 (『生命之泊』 BCC)

例文(3)の“只”はとりたて副詞で、文中の数量詞“一份”(1 通)をとりたて、出した履歴書の数は 2 通や 3 通ではなく、1 通に限られていることを示している。これは限定とりたての単純表現の用例である。例文(4)では、限定とりたて表現が二つ用いられている(“仅仅|只”のように、例文における隣接する二つの表現の間に「|」をつける)。つまり、限定とりたての二重表現の用例である。“只”も“仅仅²⁾”もとりたて副詞で、両語はいずれも“两面”(2 回)をとりたて、同列の二回以上の回数を強烈に排除しながら、「彼にあった回数」については、少なくとも十分ではないことが含意されている。

先行研究では、限定とりたての単純表現をめぐり、様々な観点から議論が活発に行われてきた。しかし、管見の限り、限定とりたての二重表現についてはあまり言及されていない。日本語記述文法研究会(編)(2009)、沼田善子(2009)では、とりたて助詞とほかのとりたて表現との結合について触れられてはいるが、とりたて副詞を含む具体的な分析が行われてはいない。鈴木靖代、布施悠子(2022)は「ただ」が「だけ」と共起する傾向があると指摘する。中国語のとりたて副詞の研究でも、限定とりたての単純表現が様々な分析されてきたが、限定とりたての二重表現にはあまり目が向けられない。ただ曹彦琳(2017)では、コーパスに基づいた中日多重限定を表す表現について言及されているが、十分ではないようである。本稿では日中両言語の限定とりたての二重表現の異同を明らかにした上で、異同の生じる原因を明らかにする。

2 コーパスに基づいた言語実態調査と分類

2-1 日本語の限定とりたての二重表現の使用頻度

コーパスを観察すると、日本語の限定とりたての二重表現は主に「ただ～だけ」、「ただ～しか」、「だけしか」、「単に～だけ」、「ただ単に」というような形式が存在している。一方、中国語の限定とりたての二重表現は日本語のほど豊富ではないように思われる。“只仅仅”、“仅仅只”、“光只”、“只光”というような形式はあるが、使用頻度は高くない。こうした表現が実際にどの程度使用されるのかをコーパスを活用して調査した。

まず、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)(中納言 2.4.5 データバージョン 2021.03)を使用し、「だけ」、「しか」、「ばかり」、「ただ」、「単に」といった単純表現の使用例を検索した。検索条件の設定については、限定とりたての二重表現の各形式を取り入れるために、品詞を「大分類」の助詞か副詞に限定した。検索範囲はジャンルが豊富で内容の正確さも一定程度信頼できる「出版・新聞/雑誌/書籍」と「国会会議録」に絞った。順に調査した各語の単純表現の用例をもとに、二重表現の用例を抽出した。

結果として、日本語の限定とりたての二重表現の種類が豊富で、とりたて助詞ととりたて副詞の組み合わせで構成される表現が最も多く、93.31%を占めている。とりたて助詞の中で、最も二重限定に構成しやすいのは「だけ」(92.07%)で、「ばかり」以外のいずれの表現との組み合わせ例も出現している。「ばかり」は最も二重限定に構成しにくく、たまに限定とりたて副詞と共起しているが(1.03%)、限定とりたて助詞との共起例はほとんど検出されていない(0.10%)。とりたて副詞の中で、最も二重限定になりやすいのは「ただ」で、全体的にみると、「ただ」の二重限定の用例が圧倒的に多い(83.40%)。そのうち、「ただ」と「だけ」が共起する例は最も多く観察されており(76.19%)、「ただ～だけ」が限定とりたての二重表現の典型的な形式であると考えられる。

文体の側面から考察すると、日本語限定とりたての二重表現の用例数は BCCWJ「出版・新聞/雑誌/書籍」より、「国会会議録」や CSJ(日本語話し言葉コーパス)において検出されたものが顕著に多い。つまり、日本語限定とりたての二重表現は話し言葉に用いられやすいといえるだろう。BCCWJ の具体的な用例数³⁾は下の表 1(本論文の図表は全て筆者作成)の通りである。

表 1. 日本語限定とりたての二重表現の使用頻度(BCCWJ)

二重表現		用例数	割合
とりたて助詞＋とりたて助詞	だけしか	19	1.96%
	しかばかり	1	0.10%
とりたて副詞＋とりたて助詞	ただ～だけ	739	76.19%
	ただ～しか	19	1.96%
	ただ～ばかり	6	0.62%
	単に～だけ	135	13.92%
	単に～しか	2	0.21%
	単に～ばかり	4	0.41%
とりたて副詞＋とりたて副詞	ただ単に	45	4.63%
計		970	100%

2-2 中国語限定とりたての二重表現の使用頻度

次に、『北京語言大学中国語コーパス』(以下、BCC)を使用して“只”、“仅”、“光”、“净”の単純用例を検索した。検索条件の設定については、BCCの検索方法に従い、検索範囲を「多領域」に設定し、同じ条件・同じ範囲で検索した。得られた結果をもとに、まず、BCCの排除機能を使用して二次操作し、研究対象とならない用例を排除した。また、単純限定の用例から、二重限定の用例を抽出した。

検査結果が示すように、中国語の限定とりたての二重表現の中で最も使用頻度が高いのは“仅仅只”で(54.92%)、全体の半分以上を占めている。“仅只”がこれに次いで第2位で、38.51%を占めている。“只仅”(0.77%)と“只光”(0.46%)の使用頻度は相対的に低いことが見て取れる。文体の側面から考察すると、中国語の限定とりたての二重表現の多くは新聞、小説ジャンルに出現する。つまり、中国語の限定とりたての二重表現は書き言葉で用いられやすいといえる。中国語限定とりたての二重表現の使用頻度は下の表2の通りである。

表2. 中国語限定とりたての二重表現の使用頻度(BCC)

二重表現	仅只	仅仅只	只仅	只仅仅	光只	只光	計
用例数	1,248	1,780	25	45	128	15	3241
割合	38.51%	54.92%	0.77%	1.39%	3.95%	0.46%	100%

2-3 パラレル・コーパスにおける使用頻度と分類

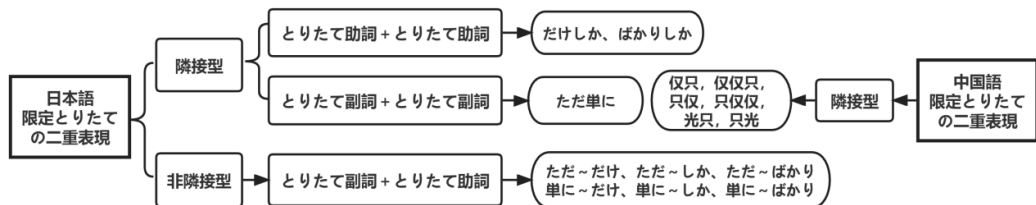
前節ではBCCWJとBCCコーパスを活用することで、日中両言語の限定とりたての二重表現の典型的な形式及びそれぞれの使用頻度が明らかになった。両言語の相対的な使用頻度を明らかにするため、北京日本学研究中心が作成したパラレル・コーパス『中日対訳コーパス』(略称、BJSTC)による調査を行った。結果として、同等な言語環境のなかで、日本語限定とりたての二重表現のデータの絶対量が多く(80例)、使用頻度は中国語のそれ(7例)を遥かに上回っていることが確認できた。

日本語の二重表現の構成は二つの単純表現が隣接する場合もあれば、離れて働くこともよく見られる。一方、中国語は、二つの単純表現が結合し、一つの塊として機能を果たしている。本稿は「だけしか」、「仅仅只」のような単純表現が隣接している限定とりたての二重表現の形式を「隣接型」と呼び、それに対し、「ただ～だけ」のように、離れて隣接していない形式を「非隣接型」と呼ぶことにする。

以上の言語実態調査に基づき、日中両言語の限定とりたての二重表現を図1のように分類する。図1が示すように、日本語の限定とりたての二重表現は2語ともとりたて助詞かとりたて副詞の場合は「隣接型」で、とりたて助詞ととりたて副詞が共起する場合は「非隣接型」とな

る。日本語と異なり、中国語の限定とりたての二重表現は「隣接型」に限られる。日本語の二重表現を成す 2 語の語順は一般的に固定的で、交替されないのに対し、中国語の 2 語は“只只”、“只只”のように、語順がしばしば交替される。

図 1. 日中両言語における限定とりたての二重表現の分類



3 統語論的特徴の対照

3-1 日本語の「隣接型」

限定とりたての二重表現は 2 語からなっている。単純表現としての 2 語は、それぞれとりたての機能を持っている。2 語が組み合わせられると、とりたてる要素の特徴は単純表現と一致しないところがある。

- (5) テレビだけ|しか損害がありませんでした。 (『国会会議録』BCCWJ)
- (6) これは行政当局が準備していただく資料に基づいてだけ|しか判断できませんでした。 (『国会会議録』BCCWJ)
- (7) なぜ労働者の話だけ|しかしないのですか。 (『国会会議録』BCCWJ)

例文(5)～(7)は「だけしか」の二重限定の例である。単純とりたて表現の「だけ」と「しか」はとりたて助詞で、助詞の文法特徴に従い、直前の要素をとりたてるのが一般的である。2 語が隣接して共起すると、2 語は一体となり、その直前の要素をとりたてる。例文(5)では主題としての名詞「テレビ」がとりたてられている。例文(6)では、連用修飾成分の「準備していただく資料に基づいて」、例文(7)では目的語の「労働者の話」がとりたてられている。ただし、「だけ」による単純表現と異なり、「だけしか」の結合で構成された二重表現は動詞成分をとりたてにくいという特徴がある。

- (8a) 実態調査をするだけで数字が決まる。 (『国会会議録』BCCWJ)

- (8b) 実態調査をするしかない。 (筆者の作例)
(8c) ?実態調査をするだけしかない。 (筆者の作例)
(9) 法律に書いてあることは、権限を与えるということだけしかどこだって書かないわけです。 (『国会会議録』BCCWJ)

例文(8a)と(8b)における限定とりたての単純表現は直前の動詞成分をとりたてている。一方、筆者のネイティブチェックによれば、例文(8c)の容認度は低くなる。「だけしか」は動詞成分ではなく、目的語としての名詞、名詞句をとりたてるのが一般的である。例文(9)のように、動詞成分が名詞節化された表現になる場合にはしばしば「だけしか」にとりたてられる。

「ただ」と「単に」は2語ともとりたて副詞で、単純表現の場合は副詞の文法特徴にしたがい、とりたてられる要素の前に位置する。日本語記述文法研究会(編)(2009:16)は「とりたて副詞もとりたて助詞同様、格成分、述語、節をとりたてられる」と説明している。「ただ」と「単に」の2語が結合した表現は以下の例文(10)～(12)のように、依然としてとりたてられる要素の前に現れる。

- (10) 無限はただ単に数学の1つの形式として用いられている。
(『遠くはるかな流れ』BCCWJ)
(11) ただ単に日本だけでごさいません。 (『国会会議録』BCCWJ)
(12) ただ単にいくつかの偶然といくつかの暗示が一致しただけだ。(『国会会議録』BCCWJ)

「ただ単に」のとりたてる要素について、例文(10)では格成分「数学の1つの形式」、例文(11)では述語としての名詞「日本」がとりたてられている。例文(12)では、「ただ単に」は後ろの「だけ」と共起し、「だけだ」によって名詞化された述部をとりたてている。「ただ単に」は「だけ」以外にも、「しか」、「のみ」との共起用例がコーパスの中で観察されている。また、「ただ単に」は述語の肯定形式とも共起できるし、否定形式とも共起できる。

ところが、「ただ単に」のとりたてる要素はどのような場合でも明確であるとは限らない。沼田善子(2009:73)によると、とりたて表現の焦点は文脈や場面的状況などの要因で決定される。たとえば、上述の例文(10)では、「ただ単に」のとりたてる要素が「数学の1つの形式」であることは、文脈情報に基づいて判断できる。仮に主語「無限」がなかったとしたら、「ただ単に」のとりたてる要素は「数学の1つの形式」なのか、それとも述部の「数学の1つの形式として用いられている」なのか判断しにくい。したがって、「ただ単に」文は曖昧文になる可能性がある。

る。一方、例文(10)とは異なり、例文(11)、(12)ではとりたて助詞の「だけ」が付加され、文の焦点が明確になっている。

3-2 日本語の「非隣接型」

日本語の「非隣接型」限定とりたての二重表現は「ただ」、「単に」と「だけ」、「しか」といったとりたて助詞が結合する形式である。本節では「ただ～だけ」を例に分析する。

- (13) 文章をただ読んでいるだけなのかな。(『国会会議録』BCCWJ)
 (14) ただ純粹に自分がやりたいからやっているだけだった。(『インド』BCCWJ)
 (15) ただそれだけの理由で急いでいたのであった。(『螢の舟』BCCWJ)
 (16) 僕は何もただばかばか広告だけ打てば PR ができる[…](『国会会議録』BCCWJ)

例文(13)～(16)が示すように、「ただ～だけ」文における 2 語の付加位置は固定的ではない。「ただ」は文頭にも、文中にも生じることができる。「だけ」は文中にも現れ、時には「だけなのかな」「だけ(だ)」などの形式で文末に出現する。例文(13)、(14)はその例である。

例文(15)、(16)における「だけ」は直前の名詞をとりたてる。しかし、「ただ」はとりたて副詞として名詞成分も動詞述語成分もとりたてられる。例えば(15)の「ただ」は「それだけの理由で」、例文(16)においては「ばかばか広告だけ打てば」をとりたてる。とりたて副詞はそもそも焦点移動の特徴を持っているので、「ただ～だけ」のような非隣接型二重とりたて表現の 2 語のとりたてる要素は時に一致しないことが確認できる。また、「ただ～だけではない」という否定形式も自然であり、「ただ～だけ」をはじめとする日本語の「非隣接型」二重表現には肯定、否定の述語制限がない。これは次節で論じる中国語の「隣接型」とは異なる点である。

3-3 中国語の「隣接型」

中国語の「隣接型」二重表現は“只”に関わるものが多い。前述の 2-3 節で説明したように、中国語の「隣接型」限定とりたての二重表現の中で、相対的に使用頻度が高いのは、“仅仅只”、“仅只”、“只仅仅”、“只仅”、“光只”、“只光”であり、いずれも“只”と結合して二重表現をなすものである。

- (17) 他们 也 仅仅只 知道 一个 概数。
 (彼ら も 二重限定 知っている 一つ 概数)

- 「彼らもただ一つの概数しか知らない」 (『报刊精选』CCL)
- (18) 仅仅|只 一刹那 的 功夫。
(二重限定 一瞬 の 時間)
「ほんの一瞬のこと」 (『玉娇龙』BCC)
- (19a) 外星城市 不 仅仅|只 是 构想。
(異星都市 ない 二重限定 は 構想)
「異星都市は構想だけではない」 (『报刊精选』CCL)
- (19b) *外星城市 仅仅|只 不是 构想。 (筆者の作例)
(異星都市 二重限定 ない 構想)

“仅仅”と“只”はいずれもとりたて副詞であり、2語が結合すると、依然として述語の前に位置し、文の述語部分を修飾する役割を果たしている。“仅仅只”の後に来る成分は例文(17)の“知道”(知っている)のような動詞が多い。コーパスを観察すると、「仅仅只+動詞」の出現度合いが圧倒的多数を占めている。しかもその動詞に名詞が共起することが多い。共起する名詞は、通常「+少量」の属性を持つか、あるいは“一个”のような少量性数量詞を伴う。“仅仅只”がとりたてる要素はよく動詞の後ろに位置する目的語名詞であり、文脈によっては、動詞或いは「動詞+名詞」の述部全体も“仅仅只”のとりたてる要素に充当できる。こうした形式では、動詞が省略され、例文(18)のように「仅仅只+名詞」の形になることもある。否定の制限について、例文(19a)のように、とりたて表現の“仅仅只”そのものを否定することはできるが、非文の(19b)が示すように、“仅仅只”は述語の否定形式と共起できない。

- (20) 主人公 在 火车 上 仅|只 活动了 20 个 小时。
(主人公 居る 列車 上 二重限定 滞在した 20 個 時間)
「主人公は電車の中で 20 時間しかいなかった」(『当代世界文学名著鉴赏词典』CCL)
- (21) 塘沽 到 天津 的 火车 仅|只 一个 来回。
(塘沽 着く 天津 の 列車 二重限定 一つ 往復)
「塘沽から天津までの列車は 1 往復しかない」 (『科技文献』BCC)
- (22a) 茶 在 中国 不 仅|只 看作 一种 饮品。
(茶 で 中国 ない 二重限定 見なす 一種 飲み物)
「お茶は中国ではただ飲み物と考えられているだけではない」 (新华社 CCL)
- (22b) *茶 在 中国 仅|只 不 看作 一种 饮品。
(茶 で 中国 二重限定 ない 見なす 一種 飲み物) (筆者の作例)

例文(20)～(22)は“仅只”の使用例である。例文から明らかなように、“仅只”の統語論的特徴

は“仅仅只”とほぼ一致している。例文(20)の“仅只活动了 20 个小时”(20 時間しかいなかった)のように、“仅只”も動詞成分をとりたてやすい。動詞の後ろに来るのは“20 个小时”(20 時間)“一个来回”(1 往復)“一种饮品”(一種の飲み物)などの数量の伴う名詞句である。また、例文(21)のように、“仅只一个来回”という形式となり、動詞“有”が省略される場合もある。“仅只”のとりたてる要素も“仅仅只”と同様で、一般に補充成分としての名詞を際立たせ、言語環境によっては動作行為を制限する可能性もある。述語の制限について、例文(22a)のように“不仅只”はよく見られるが、(22b)のような述語の否定形式は成立できない。

(23) 只|仅仅 五分钟 就 看到了 生活 的 本质。

(二重限定 5 分 で 見えた 生活 の 本質)

「5 分だけで生活の本質が見えてきた」 (『人到四十』BCC)

(24a) 整个 工作, 只|仅仅 完成了 一半。

(全体 仕事 二重限定 できた 半分)

「全体の仕事は、半分しかできていない」 (『新爱洛伊丝』BCC)

(24b)? 整个 工作, 不 只|仅仅 完成了 一半。 (筆者の作例)

(全体 仕事 ない 二重限定 できた 半分)

(24c) *整个 工作, 只|仅仅 不 完成了 一半。 (筆者の作例)

(全体 仕事 二重限定 ない できた 半分)

(25a) 其 职能 范围 也 只|仅 限于 中关村海淀园 区内 的 企业。

(その 機能 範囲 も 二重限定 限る 中関村海淀園 区内 の 企業)

「その機能の範囲も中関村海淀園区内の企業に限られている」 (『科学技术文献』BCC)

(25b)? 其 职能 范围 也 不 只|仅 限于 中关村海淀园 区内 的 企业。

(その 機能 範囲 も ない 二重限定 限る 中関村海淀園 区内 の 企業)

(筆者の作例)

(25c) * 其 职能 范围 也 只|仅 不 限于 中关村海淀园 区内 的 企业。

(その 機能 範囲 も 二重限定 ない 限る 中関村海淀園 区内 の 企業)

(筆者の作例)

例文(23)～(25)は“只仅仅”と“只仅”の用例である。付加位置及びとりたてる要素の特徴は“仅仅只”、“仅只”とほぼ同様であるので、ここでは分析しないことにする。ただし、“只”の前置で構成された二重表現は“只”の後置のほうより、名詞成分をとりたてやすい。例えば、例文(23)、(24a)、(25a)はその例である。また、例文(24b)、(25b)は“只仅仅”、“只仅”の否定形式“不只仅仅”、“不只仅”文であり、容認度が低く、コーパスでの用例も減多に観察されない。なお、単純表現の“不仅仅”、“不仅”は容認可能である。述語制限についても前述した中国語の二重

表現と同じように、述語の否定形式と共起できない。それゆえ、例文(24c)、(25c)は非文である。

- (26) 你们 别 光只 会 听, 帮忙 想想 办法 行 吗。
(あなたたち ない 二重限定 できる 聞く 手伝う 思う 方法 いける か)
「聞いただけじゃなくて、何とかしてくれないか」 (『烈火青春』BCC)
- (27) 老百姓 买 东西 时 不 光只 图 物美价廉。
(庶民 買う 品物 時 ない 二重限定 求める 安くていい)
「庶民は安くていいものばかりを求めて買い物をするわけではない」(市場報 CCL)
- (28a) 只光 念了 一肚子 旧书。
(二重限定 読んだ 腹いっぱい 古本)
「ただ古本ばかり読んでいた」 (『多少恨』BCC)
- (28b) ? 不 只光 念了 一肚子 旧书。
(ない 二重限定 読んだ 腹いっぱい 古本) (筆者の作例)
- (28c) * 只光 不 念了 一肚子 旧书。
(二重限定 ない 読んだ 腹いっぱい 古本) (筆者の作例)

例文(26)、(27)は“光只”の用例であるが、“光只”自体が常に“别光只”、“不光只”のような否定形式で出現する点に統語的特徴がある。否定を表す“别”、“不”を省略した肯定文の容認度は否定形式の文ほど高くない。それと異なり、(28a)の“只光”を用いた文は自然に成立できるが、例文(28b)の“不只光”文は不自然である。また、非文の(28c)が示すように、“只光”と“光只”も述語動詞の否定形式と共起できない。

本節で明らかになった二重表現の統語論的特徴は次の通りである。日本語二重表現のとりたてる要素の種類が単純表現ほど豊富ではない。二重表現は名詞成分をとりたてやすく、動詞成分をとりたてにくい傾向がある。二重表現を構成する2語のとりたてる要素は、一致することもある、一致しないこともある。その中で、日本語の「非隣接型」は、2語それぞれのとりたてる要素が一致しないことになりやすい。中国語二重表現の2語は結合して共に働き、とりたてる要素は一致するが、曖昧文になりやすい。中国語の“仅仅只”、“光只”と日本語の「だけ」、「しか」に関する表現そのものは否定形式になりやすいが、それ以外の二重表現自体は否定形式になりにくい。

日本語と中国語の二重限定とりたて表現の最大の相違は、共起できる述語の制限にある。日本語の二重表現は述語の肯定形式とも否定形式とも共起できる。それに対し、中国語の二重表現は述語の否定形式と共起しにくく、述部は肯定形式に限られる。

4 意味論的特徴の対照

4-1 限定性強化

日本語の「だけしか」、「ばかりしか」、「ただ単に」などの「隣接型」二重表現は主に限定性を強化する機能を果たしている。一方、中国語の限定とりたての二重表現はいずれも「隣接型」であるので、限定性強化の機能が中心であると本稿は主張する。

(29) あなたは一般論だけしか言わなかったから[……] (『国会会議録』BCCWJ)

(30) この雑誌には低俗な記事ばかりしか載っていないようだ。

(記述文法研究会(編)2009:58)

(31) ただ単に二つのものを合わせたというだけではまことに残念な話です。

(『国会会議録』BCCWJ)

例文(29)における「だけしか」は直前の「一般論」を際立たせ、主語「あなた」の言った事柄が「一般論」に限定されていることを伝えると同時に、「一般論」と反対の内容、つまり様々な具体論が排除されていることが含意されている。仮に「だけ」を削除したら、限定の意味もそれに伴って弱くなる。例文(30)の「ばかりしか」も同じように、限定性強化の機能を果たしている。ただし、「ばかり」にはまた付加義があるので、「ばかり」を削除して文を単純表現に置き換えると、限定性が弱くなると同時に、付加義も消えてしまう。

例文(31)の「ただ単に」はとりたて副詞の2語で構成され、同時に後の成分をとりたてる。「ただ」と「単に」のどちらかを削除しても、限定性が必ず弱まる。

(32) 仅仅只 会 几句 简单 的 英文。

(二重限定 できる いくつか 簡単な 英語)

「簡単な英語しかできない」

(『都市快讯』BCC)

(33) 仅只 一点点 艺术化 恐怕 还 不行。

(二重限定 ちょっと 芸術化 恐らく まだ だめ)

「ちょっと芸術化するだけではダメかもしれない」

(『浊世人间』BCC)

例文(32)、(33)の“仅仅只”、“仅只”はとりたての限定性を強化する面で同等な機能を果たしている。単純限定に置き換えると、限定性が弱くなることは例文から観察できる。それに、例文(33)より、例文(32)のほうがより「限定性」が強くなる。言い換えれば、“仅仅只”と“仅只”の相違は限定性の強弱に存在し、“仅只”より、“仅仅只”の限定性はもっと強勢的である。それゆえ、2-2節で示したように、“仅仅只”の使用頻度も相対的に高い。

- (34) 他 的 散 文 似 乎 只|仅仅 写 给 自 己 看。
(かれ の エッセイ ようだ 二重限定 書く 与える 自分 読む)
「彼のエッセイは、自分のためだけに書かれているようだ。」（『科技文献』BCC）
- (35) 不 能 只|仅 凭 一 时 或 一 批 来 定 论。
(ない できる 二重限定 頼る 一時 或る 一群れ 来る 決めつける)
「一時的なものや一群れだけで決めつけることはできない」（『福建日报』BCC）

例文(34)、(35)は“只仅仅”と“只仅”の用例で、意味上の特徴は前述の“仅仅只”と“仅只”とはほぼ同じで、限定性を強化する意味機能を持っている。限定性の強弱については、“只仅仅”のほうが“只仅”より高いので、2-2 節で示したように、使用頻度も相対的に高いのである。

- (36) 很 多 事 不 能 只|光 看 表 面。
(たくさん 事 ない 行ける 二重限定 見る 表面)
「表面だけ見てはいけないことも多い」（『边关守将』BCC）
- (37) 光|只 这 一 餐 就 足 以 让 常 人 吃 两 天。
(二重限定 この 一食 で 十分 させる 一般人 食べる 二日)
「ただそれだけの食事で普通の人は二日分は食べられる」（『神偷小千』BCC）

例文(36)では“只光”、(37)では“光只”が用いられ、それぞれ“看表面”、“这一餐”をとりたて、限定の意味を強化している。ただし、“光”には様々な意味が付加され、単純表現の“只”より、“光只”の意味機能は豊富である。“只光”と“光只”には構文上の相違があるが、限定性の強弱においては相違がないと考えられる。“光只”は名詞も動詞もとりたてやすいので、2-2 節で示したように、使用頻度が“只光”より高い。

4-2 婉曲的回避

2-1 節では、日本語の限定とりたての二重表現は話し言葉で多用されることを明らかにした。談話のなかで、限定とりたて表現の機能は限定だけではなく、評価の解釈という効果も与える。特に述語をとりたてる場合では、話し手の主観的評価の解釈が生じる。その意味機能は英語の *just* や *only* のような「婉曲的回避」用法と類似していると考えられる。英語の「It is that 節構文」を分析する大竹芳夫(2009:49-51)は「話し手の知識と関連付けて先行情報の解釈を伝えることから、「相手を教え諭したり、理屈を説いたり、無知をあげつらう」ような含みをしばしば派生し得ること、そうした聞き手に情報を押し付ける含意を積極的に回避するために *just* や

only を付加する場合もある」と指摘する。以下ではこうした英語の just や only と類似する「婉曲的回避」が日本語や中国語にもあるのかを考察する。言語事実を観察すると、日本語限定とりたての単純表現の「ただ」及びその最も使用頻度の高い二重表現の「ただ～だけ」構文が「婉曲的回避」の機能を持っている。

(38) 深い意味はない。ただ聞いてみただけだ。(BJSTC 原文)

(39) しかし、私はただ食欲がない。どんなご馳走を前にしようと食べる気がしない。

(BJSTC 原文)

例文(38)は、「ただ～だけ」という二重表現の使用例である。発話の前提は話し手がある行動をとったことである。聞き手がそれに気づいたことに伴い、話し手の知識と関連付け、両者共有の先行情報がそこから生じる。話し手の行動に対して、疑問をもったり、評価したかったりする気持ちも同時に生じてきている。このような情報を前提として、話し手は自分の行動を解釈するとき、「(ただ)聞いてみただけだ」という軽い口調を通して相手の疑問を解消したり、自分の本当の意図や気まずい空気なども積極的に回避できる。こうして婉曲的に意図を濁したり、空気を和らげたりすることができれば、円滑なコミュニケーションにもなりうる。この形式の「ただ」が省略されて「だけだ」の形式となった場合もしばしば見られる。しかし、「ただ」を省略すると、口調の穏やかさが減少し、「ただ～だけ」ほど婉曲的ではない。

例文(39)は「ただ」の単独使用例である。「だけ」がない文では、何かを回避する口調がもっと和らいで婉曲になる。

(40) “我 只是 很 认真 在听 他 讲话 而已。”

(私 ただ とても 真剣に 聞いている 彼 話をする 終助詞)

「私はただ真剣に聞いていただけです」(BJSTC 訳文)

(41) 但, 我 只是 没有 食欲, 不管 面前 放着 什么样的 美味佳肴,

(しかし 私 ただ ない 食欲 としても 目の前 置く どんな ご馳走)

也 丝毫 引 不 起 食欲。

(も ちっとも 引き起こす ない 起きる 食欲) (BJSTC 例文(39)訳文)

中国語のとりたて表現では、「婉曲的回避」の用法が含まれるのは例文(40)、(41)が示すように、「只是」に限られる。しかしながら「只是」は「婉曲的回避」用法以外にもさまざまな機能がある。「婉曲的回避」の機能を強化するため、「只是」が会話に用いられる時、例文(40)が示すように、文末に“而已”が付加されやすい。“而已”は終助詞で、しばしば限定とりたて表現

と共に、語気が軽く「それまでだ」という含意が暗示される。

総じていえば、日本語と中国語限定とりたての二重表現の意味上の共通点は、いずれも限定性強化を表している。異なるのは、日本語の限定とりたて表現では、二重表現が多用されるが、それに対応する中国語表現は“只是”などの単純表現が一般的で、話し言葉では“只是～而已”の形式もよく見られる。また、日本語の二重表現は顕著な「婉曲的回避」の特徴を持っているのに対し、対応する中国語表現は一つの形式の中でも機能が多いので、「婉曲的回避」の意味特徴は日本語ほど鮮明ではない。以上の特徴のために、日本語の二重表現は話し言葉で使われる頻度が高いとも考えられる。

5 言語類型的特徴の対照

5-1 経済性判断

言語には経済性の原則が働く。町田健(2004:169)によると、言語の経済性とは、「コトバのしくみは人間ができるだけ労力を使わなくて済むように、効率的に出来上がっているという性質のことを言う」。一見すれば、二重限定は経済性原則に反するようであるが、実はそうではない。とりたてとは文中のある要素を際立たせ、その要素に対する話し手の捉え方を暗示することとされている。言い換えれば、「際立ち」はとりたて表現が機能を果たせる基礎的な手法といえる。辻幸夫(編)(2013:75)によると、「際立ちとは、意味極もしくは音韻極内のある特定の限定された構造が焦点化されている度合いを指す。(中略)…意味は客観的な概念内容が同じであっても捉え方が違えば異なる。そのような捉え方の一つに際立ちがある」。つまり、「際立ち」には程度があると考えられる。以上の観点を踏まえると、限定とりたての二重表現の存在価値はまず「際立ち」の機能を強化することにある。

二重限定は「際立ち」の程度を高めることで限定性を強化する。日本語の「隣接型」と中国語の「隣接型」はいずれも「際立ち」を強化する機能を持っている。そのうえ、日本語の「隣接型」は様々な付加義がある。経済性原則に沿っていなくても存在価値が高いため、使用頻度も高いのである。一方、中国語の二重表現は限定性を強化する以外には豊富な付加義がない。即ち、経済性原則への適応度が低いので、使用頻度も高くないのである。

5-2 優勢語順と曖昧性解消

井戸美里(2021:98)は、「日本語のとりたて表現はとりたて助詞が主に用いられ、他言語と比べるととりたて表現専用の形態の数が豊富である」と指摘している。日本語は典型的な SOV 語順言語であるのに対し、現代中国語標準語は全体的に見れば、SVO 語順言語に属する。ある言語が SOV 型語順を持つなら、その言語は後置詞を使うのが優勢語順であるとされている。例えば、日本語のとりたて助詞「だけ」は助詞の機能に従い、名詞などの体言に後続するのが一般的である。とりたて要素との関係からいえば、後置詞とも呼ばれるものがある。即ち、「だけ」の

付加位置は言語類型論の優勢語順と合致すると判断できる。それゆえ、「だけ」のようなとりたて助詞のとりたてる対象は明確であり、曖昧性が生じにくい。

しかしながら、日本語のとりたて副詞はとりたて助詞とは反対に、とりたてる要素の前に位置しており、優勢語順と一致していない。もし述部が複雑であれば、とりたてる要素が確認しにくくなり、曖昧文になりうる。

(42a) ただ労働者負担だけが高くなるから給付を下げる[……。] (『国会会議録』BCCWJ)

(42b) ? ただ労働者負担が高くなるから給付を下げる。(筆者の作例)

(42c) ただ労働者(A)負担(B)が高くなるから給付(C)を下げる(D)。(筆者の作例)。

例文(42a)では、「ただ～だけ」という二重形式が働き、「労働者負担」がとりたてられ、文には曖昧性がない。しかし、例文(42b)における「ただ」がとりたてる対象の範囲はいくつかの可能性がある。話し手の意図によっては、とりたてる要素も異なる。例文(42c)のように、とりたてる要素になれる文成分(A)、(B)、(C)、(D)に「だけ」を後置させると、とりたてる要素が異なる文が四つ生じる。即ち、「だけ」のようなとりたて助詞との共起によって、とりたて副詞文の曖昧性が解消できるということである。

一方、金立鑫(2011)、徐烈炯・劉丹青(2018)によると、SOV 語順言語における連用修飾成分はほとんど動詞か形容詞の前方に位置するのに対し、SVO 語順言語の連用修飾成分は動詞か形容詞の後方に位置するのが優勢的である。とりたて副詞“只”の付加位置は相対的固定で、前置するのが一般的である。したがって、中国語のとりたて副詞は SVO 型言語の優勢語順とは一致しないと言える。言語類型的観点で説明すると、“只”を代表とする中国語とりたて副詞の付加位置は SVO 型言語の優勢語順ではないことが文の曖昧性を導いていると考えられる。

(43a) 每 学期 只 进行 一次 考试。

(每 学期 だけ 行う 1 回 試験)

「試験は学期ごとに 1 回だけ行う」 (『現代』CCL)

(43b) 每 学期 仅仅只 进行 一次 考试。

(每 学期 二重限定 行う 1 回 試験) (筆者の作例)

(43c) 每 学期 只 进行 一次 考试, 不 能 考 两次。

(每 学期 ただ 行う 1 回 試験 ない できる 受ける 2 回)

「1 学期に 1 回だけ試験が行われ、2 回受けることはできない」(筆者の作例)

(43d) 每 学期 只 进行 一次 考试, 不 用 上课。

(每 学期 ただ 行う 1 回 試験 ない 要る 授業を受ける)

「1 学期に 1 回試験を行うだけで、授業はない」 (筆者の作例)

例文(43a)におけるとりたて副詞の“只”はとりたてられる要素の前に位置する。“只”のとりたてる要素が“一次”なのは一般的であり、場合によっては、述部の他の要素も“只”のとりたてる要素になれる。即ち、この文は曖昧性がある。日本語のように他のとりたて表現を付加させて二重限定をなすことで曖昧性を解消できる。しかしながら、中国語には日本語のようなとりたて助詞がないので、とりたて副詞しか付加させられない。“仅仅”が付加されて“仅仅只”という二重限定の例文(43b)でも、曖昧性は解消されない。

例文(43a)の曖昧性解消方法としては、話し言葉では“一次”などの要素にそれぞれプロミネンスを置くことである。書き言葉では、例文(43c)、(43d)のように、対比焦点を補充すれば解消できる。(43c)では、後続文の“两次”という対比項の添加によって、先行文における“一次”が焦点となり、曖昧性も同時に解消される。同じように、(43d)の述部“进行一次”が焦点となることに伴い、文の意味も明確になる。こうした側面から解釈すると、中国語の曖昧性解消方法より、日本語のほうが簡便で、言語の経済性原則に当てはまると考えられる。ここまでの論述をまとめると下の表3のようになる。

表3. 日中両言語における限定とりたての二重表現の対照

	日本語		中国語 隣接型
	隣接型	非隣接型	
使用頻度	相対的に高い	非常に高い	相対的に低い
文体	話し言葉で使われやすい		書き言葉で使われやすい
対象傾向	名詞をとりたてやすい	名詞も動詞もとりたてやすい	動詞をとりたてやすい
述語制限	肯定とも否定とも共起できる表現が多い		否定と共起できない
意味機能	限定性強化	限定性強化； 婉曲的回避	限定性強化
経済性 判断	存在価値が相対的に高いので使用頻度が高い	意味上も文法上も大きな情報伝達機能を果たし、経済性原則への適応度が高くて使用頻度が最も高い	限定性強化以外の機能が少ないので、経済性原則への適応度が低くて使用頻度も低い
優勢語順 と曖昧性	優勢語順と一致する時、曖昧性が生じない	優勢語順と一致しない時の曖昧性解消手法となる	優勢語順と一致しないが、二重表現で曖昧性を解消できない

6 まとめ

本稿は、日中両言語における限定とりたての二重表現を対照研究した。総じていえば、日本語における限定とりたての二重表現の出現傾向は中国語のそれを遥かに上回る。中国語にも限定とりたての二重表現が存在しているが、日本語ほど多用されていない。両言語それぞれの統語、意味及び言語類型の特徴に関する知見を以下にまとめる。

①限定とりたての二重表現は単純表現への選択と補充である。統語論的特徴から見えるよう

に、単純限定とりたて助詞がとりたてる要素は名詞などの体言から動詞などの用言へと拡張する過程がある。二重表現は単純表現に基づいて形成し、形成初期には、より組み合わせやすい名詞と共起する傾向がある。この点は日本語二重表現の多くが動詞などの用言成分と共起しにくいことから証明できる。

②意味機能のレベルでは、限定とりたての二重表現は単純限定の意味機能の強化と付加である。日本語「隣接型」二重限定は「限定性強化」によって「唯一性」か「排他性」を際立たせる。「非隣接型」は他の限定表現を加えることで、文の意味にある種の否定的評価などの応用機能を持たせる。つまり、日本語の二重表現は、単純表現に比べ、構文上の機能が縮小されているが、意味機能は拡張されているのである。

③日本語の二重表現は単純表現より曖昧さを回避できる。二重限定は更に明確に話し手の意図を伝えることができる。これに比べ、中国語の二重表現はとりたて副詞によってしか構成されていないため、とりたて副詞自体が曖昧さを生みやすい。単に別のとりたて副詞を付加するだけでは、曖昧さを避けられない。中国語の二重表現は通常、限定性強化だけの役割を果たす。

④言語は情報伝達機能を果たしている。情報をより正確に伝えるために、様々な表現手法が付加され、言語が複雑になる。それと同時に、言語も経済性原則の規制を受けながら発展する。以上二つの発展方向は相互矛盾であるが、言語はその葛藤の中で特徴づけられる。二重限定は同じ機能の重複として扱われると、本質的には、言語の経済性原則に合致しない。もし、ある言語形式が強力な情報伝達能力を示すならば、この言語現象は経済性原則に違反しない。日本語の限定とりたての二重表現はその例である。その存在価値と強力な生命力は言語の経済性原則への違反を削減できる。即ち、日本語の二重限定表現は、言語の経済性原則と類似性原則とを両方共存させることができるといえる。その点が日本語二重表現の使用頻度が高いことに至った根本的な原因であると考えられる。

⑤一方、中国語の二重限定表現は、日本語のような強力な情報伝達機能を持っていないため、話し手が二重限定を使う意志が希薄になっている。それゆえ、日本語の二重限定ほど生命力が旺盛ではない。それは中国語二重限定表現の低使用頻度の原因である。

中国語の限定を表すとりたて副詞は中国語文法研究では、よく範囲副詞として捉えられているが、統語論的特徴からみると、一般的な副詞とは異なるところが存在している。例えば、よく名詞成分と共起する点については、日本語の限定とりたて助詞に似ており、ある程度では助詞の機能を果たしているように考えられる。日中両言語における限定とりたての二重表現の応用条件や具体的な共起傾向を今後の課題とする。

<注>

- 1) 言語事例では、「ただ～だけしか」「ただ単に～だけ」というような三つのとりたて表現が共起すること

も少なくない。本稿はそれらを「三重限定とりたて表現」と呼ぶ。形式と意味上の特徴は限定とりたての二重表現に似ているので、本稿では取り上げないことにする。

- 2) “仅”も“仅仅”も中国語限定とりたて表現である。“仅仅”は“仅”の口語形式として固定化されたので、本稿は“仅仅”を二重限定ではなく、単純表現として捉えることにする。
- 3) BCCWJ では品詞設定の関係上、検索結果に研究対象とならない「ごみ用例」も含まれてくる。そこで、ダウンロードした用例は手作業で逐一チェックを行うこととする。

<出典>

本稿の例文は、分析を容易にするために先行研究から引用または筆者が作成したものを除き、BCCWJ・BCC・CCL・BJSTC から引用したものである。

<引用文献>

日本語で書かれた参考文献

- 井戸美里（2021）「日本語のとりたて表現と言語類型論」窪菌晴夫・野田尚史・ブラシャントパルデシ・松本曜（編）『日本語研究と言語理論から見た言語類型論』、開拓社 pp.98-124
- 大竹芳夫（2009）『「の（だ）」に対応する英語の構文』、くろしお出版
- 鈴木靖代・布施悠子（2022）「対話場面における副詞「ただ」使用上の制約の分析:母語話者と学習者のコーパスデータを比較して」『国立国語研究所論集』22、pp.55-70
- 辻幸夫（編）(2013)『新編認知言語学キーワード辞典』、研究社
- 日本語記述文法研究会（編）(2009)『現代日本語文法 5』、くろしお出版
- 沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』、ひつじ書房
- 町田健（2004）『ソーシャルと言語学』、講談社

中国語で書かれた参考文献

- 金立鑫（2011）『什么是语言类型学』（言語類型論とは何か）、上海外语教育出版社
- 徐烈炯・劉丹青（2018）『话题的结构与功能』（話題の構造と機能）、上海教育出版社
- 曹彦琳（2017）『基于语料库的汉日多重限定表达对比研究』（コーパスに基づいた中日多重限定表現の対比研究）、外语教学与研究出版社

附記:本研究は中国教育部人文社会科学研究プロジェクト(21YJC740048)の研究成果の一部である。
本稿の内容は「東アジア国際言語学会第9回大会(2022年2月・東京)」における口頭発表に基づいたものである。

主指導教員（江畑冬生教授）、副指導教員（大竹芳夫教授・三ツ井正孝准教授）